

平成 23 年度第 6 回宇都宮大学経営協議会議事要録

日 時 平成 24 年 2 月 29 日（水）10 時 00 分～11 時 55 分
場 所 宇都宮大学本部第一会議室
出 席 者 進村，飯村，板橋，角，橋本，増山，築，馬場，渡邊，石田，國友，内山，
海野，茅野の各委員
伊藤監事，塚本学長特別補佐

議事に先立ち，平成 23 年度第 5 回宇都宮大学経営協議会議事要録（案）を確認し，原案のとおり承認した。

[議 題]

1. 大学改革について

資料 1-1, 1-2, 1-3

学長から，資料 1-1（平成 24 年度文教予算（国立大学関係）のポイント），1-2（大学改革の方針（案））及び 1-3（あらたな宇都宮大学の創造に向けて）に基づき，本学を取り巻く状況及び大学改革に向けた方針等について説明があり，学外委員から大学改革の取組等に関する助言及び意見等をいただき，大学改革に活かしていきたい旨の説明があった。

（主な意見等）

- ・大学改革を検討する際には，宇都宮大学の強みと弱み，チャンスとリスクをどのように認識し，整理するかの視点が必要である。「事業の選択と集中」の手法を取り入れることが大切である。
- ・改革のポイントとして「グローバル」を意識していると思われるが，宇都宮大学にとっては弱みではないかと思う。全国唯一の国際学部を有する大学であり，「グローバル」の弱みの強化を期待している。
- ・国際マネジメント能力の開発は，実現可能なのか。経営，経済学部等がない環境の中で，どのような教育をするのが疑問である。
- ・「グローバル」を意識するのであれば，海外留学を義務づけるなど，政策を進めるべきである。
- ・秋入学に対して，もっと積極的な対応が必要ではないか。
- ・昨日の日本経済新聞に「スマートで強靱なグローバル人材を養成する」旨の一橋大学の山田学長の記事掲載がある。この方法は良いと思う。高校とのつながりや迎え入れる産業界とのつながりが良い。
- ・入試の改革において，渡日前入試とあるが，現在，実施されているのか。
- ・東京大学は，学内も変えるが社会全体も巻き込んでどうするかという発想がある。宇大もそのようなリスクテイクを更に考えることが必要ではないか。
- ・沖縄科学技術大学院大学は，学生や教員の半数以上が外国人であることなどユニークで挑戦的なこともあり，海外から注目されている。オプティクスセンターを改革していくにしても，同大学を参考にして良いのではないか。教員を変えないと，変わらない側面もあるかと思うが。
- ・大学は，社会にとって大きなインフラである。常に修復し，修正していく必要があり，そう

いう考え方で進めてほしい。

- 大学改革の柱として、「グローバル社会」や「地域社会との連携」を標榜しているが、具体的な問題は、地域との関わりをどうするかが問題である。地域に根ざした交流など新しい試みを実施していくことが大切である。
- 秋入学検討の背景として日本の地盤沈下があり、経済、技術、テクノロジー等において、もはや先進国ではない。入学時期や試験制度を変えただけでは、問題は解決しないのではないか。具体的に細かいことでも何かをやらなければ、変わらないのではないか。
- 海外の大学との交流協定等によって交換留学を実施しているが、宇都宮大学に關係する学生にとって良いことである。さらに拡大していくことが大切なのではないか。
- 宇都宮大学の強みとして、高等農林が前身の農学部を有していることが挙げられる。世界的に環境問題が注目されている今、農学部を見直し、地域をはじめ対外的にも強みをアピールして多くの学生を引き寄せるような取組を期待している。

以 上